

2026 年 7 月 10 日

報道関係者各位

国立大学法人筑波大学
学校法人国際医療福祉大学

がん緩和ケアに伴う便秘へのナルデメジン予防内服は費用対効果に優れる

緩和ケアの治療で、がん患者への強い鎮痛剤オピオイドの使用は、便秘を誘発することが知られています。その治療にナルデメジンという薬が使われますが、予防内服は公的保険の対象外です。本研究では、オピオイド治療と同時にナルデメジンを予防内服すると費用対効果に優れることを明らかにしました。

緩和ケアを受けるがん患者にとって、オピオイド（強い鎮痛剤）は非常に重要な薬剤です。しかし、これを使用すると便秘（オピオイド誘発性便秘）が生じることが多く、患者の生活の質を低下させ、治療の継続が困難になる場合もあります。近年、その治療薬として、ナルデメジンという腸の動きを正常に保つことで便秘を防ぐ薬が開発され、使われるようになりました。また、がん患者が新たにオピオイドを開始する際に、ナルデメジンを併用すると、便秘の予防と、生活の質の向上や吐き気の予防に効果があることも報告されています。しかしながら、ナルデメジンの予防内服は、2025 年時点では公的保険の対象外であり、標準治療としても確立されていません。患者に広く届けるためには医療費の観点からの評価が必要です。

本研究では、初めて定期的にオピオイド治療を開始するがん患者において、ナルデメジンを予防内服する場合の費用対効果を分析しました。その結果、増分費用効果比（国民 1 人の健康寿命を 1 年延ばすために追加的に社会全体で支払う費用）は、質調整生存年あたり 1,445,276 円と評価されました。日本では、新しい医療により効果を得るために支払う追加費用の基準は 500 万円とされており、緩和ケアにおけるナルデメジンの予防内服は費用対効果に優れることが示されました。

本研究結果は、がん患者の緩和ケアにおいてナルデメジンの予防内服が保険診療として認められたり、緩和ケアガイドラインに掲載されたりするための強力な根拠となり得るもので、適切な痛みの治療につながると期待されます。

研究代表者

筑波大学医学医療系

大久保 麗子 講師

近藤 正英 教授

国際医療福祉大学 病院教授・医学部准教授・大学院准教授

国際医療福祉大学成田病院 緩和医療科部長/緩和ケアセンター長

結束 貴臣

研究の背景

がん患者の緩和ケアにおいて、がんの痛みを和らげるために使われる強い鎮痛薬であるオピオイド^{注1)}は、副作用として便秘を引き起こすことが多い薬剤です。この便秘（オピオイド誘発性便秘^{注2)}）は自然に治ることがまれで、がん患者の生活の質を著しく低下させ、痛みの治療を続けることを難しくする場合もあります。オピオイド誘発性便秘に対する治療として、現在、一般的に使用されている薬剤は、浸透圧性下剤（酸化マグネシウム、ラクツロース）や大腸刺激性下剤（センナ、ピコスルファート）です。さらに最近では、ナルデメジンという薬が、これまでの便秘薬とは違った作用（腸の動きを正常に保つことで便秘を防ぐ）でオピオイド誘発性便秘に効果があることが示され、新しく使用されるようになりました。

本研究チームでは、これまでに、がん患者がオピオイド治療を開始する際に、ナルデメジンを予防内服として併用すると、オピオイド誘発性便秘の予防に有効で、生活の質も改善させる効果があることを示しました（Hamano, et al., J Clin Oncol. 2024）。しかしながら、便秘の症状が出る前からのナルデメジンの予防内服は、2026 年時点では保険診療としては認められておらず、最新の国内外のガイドラインでも推奨されていないため、一部の患者しか受けることができていません。また、このような新しい治療法については、効果に加えて費用も同時に評価する費用効果分析を行うことが求められています。従って、がん患者の緩和ケアにおいて、オピオイド誘発性便秘に対するナルデメジン予防内服を標準治療として行うことについて検討する必要があると考えられます。

研究内容と成果

本研究では、初めて定期的にオピオイド治療を開始する 20 歳以上のがん患者において、ナルデメジンを予防内服する治療に関する費用対効果を分析しました。

分析は、国内の 4 つの大学病院で行われた多施設二重盲検ランダム化プラセボ対照試験^{注3)}の結果に基づいた経済モデルを構築して行いました。具体的には、初めてオピオイドを定期的に内服するがん患者に対して、ナルデメジン予防内服を行う群と、ナルデメジン予防内服を行わない群についての判断樹を作成しました（参考図）。予防内服を行うメリットとして、①オピオイド誘発性便秘の発症が少ない、②生活の質が改善する、という仮定を経済モデルに組み込み、ナルデメジン予防内服という治療を選択することに伴う増分費用効果比^{注4)}を推計しました。

その結果、予防投与群の増分費用は年間 8,257 円、質調整生存年^{注5)}（QALY）の増分効果（健康寿命の延伸）は 0.00571 となり、増分費用効果比は 1,445,276 円/QALY となりました。すなわち、患者 1 人の健康寿命を 1 年延ばすためには、追加的に社会全体で 1,445,276 円支払うことになります。これは、日本において治療に対する費用対効果の評価基準の閾値となっている 500 万円/QALY（1 人当たりの透析医療費に相当）を下回ることから、ナルデメジン予防内服は費用対効果に優れており、限りある医療費の使い方として望ましいことが明らかとなりました。

今後の展開

本研究により、初めて定期的にオピオイドによる緩和ケアを受けるがん患者において、オピオイド誘発性便秘症に対するナルデメジンの予防内服は、費用対効果に優れることが示されました。ナルデメジン予防内服が、がん患者の緩和ケアにおいて保険診療として広く行われるためには、この治療を公的医療保険の対象内にすることや、緩和療法ガイドラインに追加することが重要です。これにより、がん患者の便秘に伴う苦痛を未然に防ぎ、適切な緩和ケアと生活の質の維持の両立が可能になると期待されます。

参考図

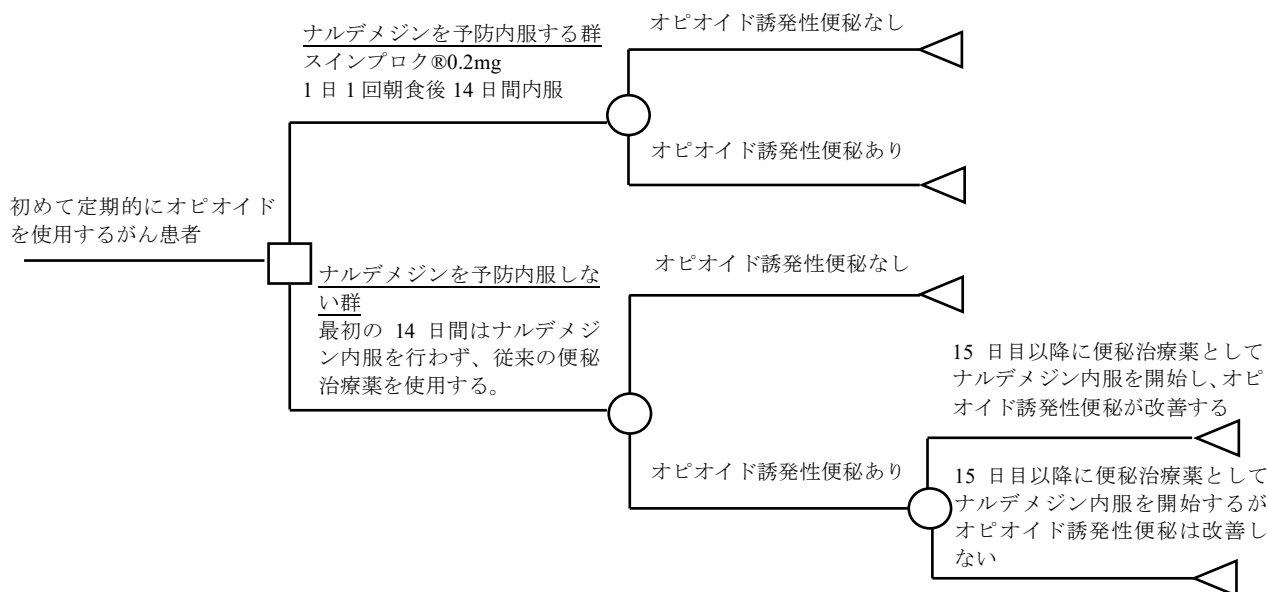


図 オピオイド誘発性便秘に対するナルデメジン予防内服の費用対効果を検討するための判断樹（□：判断点、○：確率点、△：終末点）

オピオイド誘発性便秘に対してナルデメジン予防内服を行う群と、従来の便秘治療薬（浸透圧性下剤や大腸刺激性下剤）を用いる標準治療群のがん患者の転記を比較する。予防内服群は治療1日目から生涯にわたりナルデメジン内服を継続する一方、標準治療群は実臨床のガイドラインに則り、最初の14日間はナルデメジンを内服せず、オピオイド誘発性便秘が発症した場合にナルデメジン内服を開始する。

用語解説

注1) オピオイド

がんの痛みを和らげるために使われる痛み止めの薬。モルヒネやオキシコドンなどの種類があり、脳や神経に働きかけて痛みを感じにくくする効果がある。一方で、副作用として便秘や吐き気などが起こることがある。

注2) オピオイド誘発性便秘

オピオイドによって引き起こされる便秘。オピオイドは強い鎮痛効果があるが、同時に腸の動きも鈍くしてしまうため、便が出にくくなることがある。がんの痛みを緩和するためにオピオイドを使用する患者によく見られ、生活の質を低下させる原因となることが多い。

注3) 多施設二重盲検ランダム化プラセボ対照試験

複数施設で、患者を無作為に割り付け、医師・患者ともに割り付けを知らない状態で、実薬と偽薬（プラセボ）の効果を比較する試験デザイン。治療効果を最も厳密に検証できる方法とされる。

注4) 増分費用効果比

追加で必要になる費用（増分費用）と追加で得られる効果（増分効果）の比。新しい治療法は従来の治療法に比べて、患者1人の健康寿命を1年延ばすために、追加でいくら必要かを示す指標。以下の計算式により求める。

増分費用効果比 = $\left(\left(\text{予防内服の費用} \right) - \left(\text{標準治療の費用} \right) \right) / \left(\left(\text{予防内服の効果} \right) - \left(\text{標準治療の効果} \right) \right)$

注5) 質調整生存年 (Quality-adjusted life year: QALY)

生存年数を生活の質 (QOL) の値で重み付けしたもの。QOL は、完全な健康状態は「1」、死亡状態

は「0」、病気や障害がある状態のときには「0と1の間の値」で表現する。完全な健康状態で生存する1年間の寿命の価値が1 QALY である。

研究資金

本研究は、日本緩和医療学会 緩和ケアに関する研究助成（2019 年）の支援を受けて行われました。

掲載論文

- 【題 名】 Cost-effectiveness of prophylactic naldemedine for opioid-induced constipation in patients with cancer
(がん患者におけるオピオイド誘発性便秘に対するナルデメジン予防内服の費用効果分析)
- 【著者名】 大久保 麗子（筑波大学医学医療系 講師）、東端 孝博（筑波大学医学医療系 講師）、近藤 正英（筑波大学医学医療系 教授）、結束 貴臣（国際医療福祉大学 准教授）、濱野 淳（筑波大学医学医療系 准教授）
- 【掲載誌】 Journal of Palliative Medicine
- 【掲載日】 2026 年 4 月 11 日（修正版公開日）
- 【DOI】 10.1177/10966218261440391

問い合わせ先

【研究に関すること】

大久保 麗子（おおくぼ れいこ）

筑波大学 医学医療系 講師

URL: <https://trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000004137>

【取材・報道に関すること】

筑波大学 広報局

TEL: 029-853-2040

E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp

国際医療福祉大学 東京広報部

TEL: 03-5574-3828

E-mail: press@ihwg.jp